

緩和ケアにおける浮腫について

医療法人 リムズ徳島クリニック
院長 小川佳宏

はじめに

- 緩和ケア期には四肢や顔面・体幹部に浮腫を発症することがあります。また発症していたリンパ浮腫ががんの進行で悪化することもあります。
- がんの進行を抑える抗癌剤の一部には、副作用で重症の浮腫を来すことがあります。
- 緩和ケア期の浮腫の要因・病態は複雑で、癌性疼痛や神経麻痺・しびれなど、浮腫を治療する際に問題となる症状も多くみられます。

はじめに

- 浮腫自体は予後に関係ありませんが、患者は不快感や歩行障害などを苦痛に感じており、少しでも改善させることがQOLの向上につながります。
- 改善不可能な浮腫がほとんどですが、治療をあきらめなければいけないのでしょうか？
- 浮腫の要因や病態を把握して治療に介入できれば、浮腫自体は改善できなくても、自覚症状の軽減にはつながる可能性があります。

はじめに

- 現在終末期の浮腫については、医療機関それぞれで対処方針が異なり、コンセンサスの得られた治療法は確立されていません。またエビデンスの評価も困難です。
- 今回は、終末期の浮腫や抗癌剤使用後の浮腫について、考えられる要因・病態や合併症・問題点などについて解説します。また当院の治療方針や合併症対策についても解説します。

浮腫の治療を始める前に

- 各症例でがんの進行程度や浮腫の要因・病態・合併症など全身状態が異なるため、浮腫の治療を始める前に確認する必要があります。
- 今後の治療方針や予後、家族の介護体制や訪問看護など在宅医療の体制も確認します。
- 患者本人と家族から、現在苦痛に感じている症状と、改善させたい部分について聞き取りを行い、意思疎通をはかることも必要です。

治療を開始する前に確認する要点

全身状態の把握

- がんの存在部位・進行程度
- 胸水・腹水の有無
- 主要臓器への転移の有無
- 心機能・肝機能・腎機能・貧血等の有無
- 今後のがんの治療方針・予後
- 浮腫の局在（全身性か？局所的か？）

治療を開始する前に確認する要点

リンパ節・血管系の状態

- 患肢の所属リンパ節転移の有無
- その他の表在リンパ節の転移の有無
- 骨盤内・腹腔・胸腔内のリンパ節転移の有無
- がんの進行による静脈血栓症の有無
- 圧迫療法で問題になる動脈閉塞の有無や重症の糖尿病など末梢循環障害の有無

治療を開始する前に確認する要点

患肢の状態

- 浮腫の局在：四肢や体幹のどの部位
- 浮腫の範囲・重症度・皮膚の硬化の程度
- 皮膚転移の有無・皮膚潰瘍・リンパ漏の有無
- 癌性疼痛の有無
- 知覚および運動神経障害の有無
- 白癬症など皮膚感染症の有無

進行がんの浮腫の主な要因

進行がんの浮腫では、種々の要因が混在します。

- 腫瘍や転移リンパ節による鎖骨下・上大静脈・腸骨静脈などの狭窄・閉塞
- 癌性リンパ管症
- 皮膚転移などによるリンパ漏や皮膚潰瘍
- 運動神経障害や癌性疼痛などが原因の廃用症候群による浮腫
- 一部抗癌剤副作用による浮腫 など

終末期の浮腫の主な要因

終末期では、進行がんの浮腫の要因以外に、全身合併症がみられる症例が多くなります。

- 癌性腹膜炎・胸膜炎による腹水・胸水貯留
- 多発性肝転移による肝機能障害
- 心嚢液貯留
- 腎機能障害
- 栄養障害・貧血・低アルブミン血症
- 薬剤による浮腫 など

終末期の浮腫の特徴

- 浮腫は急激に発症・進行することが多い
- 患肢は発赤することがある
- 四肢とともに体幹部も浮腫が見られやすい
- 水分の多い浮腫もあるが、皮膚が触診上非常に硬くなることもある
- リンパ漏・皮膚潰瘍を認めることがある
- 治療への反応は不良
- 疼痛・しびれ・運動神経麻痺がみられやすい
- 深部静脈血栓症を伴うこともある

終末期の浮腫の診断

治療開始前には、がんの進行程度や合併症を確認し、その他の原因の浮腫とも鑑別します。

- 画像診断：単純X線検査（肺転移や胸水など）
CT・MRI（各臓器への転移や腹水など）
超音波検査（患肢の深部静脈の確認など）
- 血液検査：肝・腎障害・貧血・腫瘍マーカーなど
- 患肢の状態確認：視診・触診・超音波検査で浮腫の範囲や皮下組織の状態などを確認

リンパ浮腫に有効な治療法とは？

- リンパ浮腫治療の基本は、**日常生活指導**とともに**複合的理学療法**（**用手的リンパドレナージ**や**圧迫療法**などを含む）を行う**複合的治療**です。

(2013 Consensus Document of the International Society of Lymphology. The Diagnosis and Treatment of Peripheral Lymphedema. Lymphology 46 (2013) 1-11)

- また、終末期の浮腫に対しても、病状を把握し適切に行われる限り有効な治療法といえます。ただ症例により、用手的リンパドレナージ中心か？圧迫療法中心か？など治療内容を選択できる医療従事者の判断が重要です。

当院での治療方針

- 当院では終末期の浮腫でも、本人・家族が希望すれば、全身状態が許す限り複合的治療を基本として治療し、可能な限り家族にも指導します。
- 用手的リンパドレナージは全身状態への悪影響は少ないですが、浮腫改善効果は少なく、圧迫療法は浮腫を改善させますが、胸水や腹水を増加させる可能性があり、本人も苦痛に感じることもあるため、複合的治療のうちでどの治療方法を選択するかには十分な配慮が必要です。

日常生活の指導

- 日常生活の状態を確認し、浮腫の悪化要因となる生活内容を可能な限り避けるよう指導します。
 - ・長時間の患肢の下垂は避ける
 - ・過労、疲労は避ける
 - ・患肢を傷つけない
 - ・皮膚転移、潰瘍部分の細菌感染を防ぐ など
- 他動的でも良いので運動を行うことにより、関節の拘縮を防ぐこととともに筋肉ポンプによる静脈・リンパ管の還流を改善させます。

スキンケア

- 表皮・真皮層が薄く傷つくとリンパ漏になりやすいため、強く刺激しないように指導します。
- 皮膚が乾燥すると、ひび割れてリンパ漏や感染につながることもあり保湿を行います。過度な保湿は皮膚がふやけるため注意が必要です。
- 手指・足趾がむくむと、指趾間がむれて白癬症や皮膚の剥離が起こりやすくなるため、乾燥させるようにします。

用手的リンパドレナージ

- リンパドレナージ単独での浮腫改善効果は軽度ですが、直接手で患肢を触る治療であり、「安心感」「気持ちよさ」という面でニーズがあります。
- 用手的リンパドレナージが転移を促すという文献はありませんし、終末期の患者に対しては、転移のリスクより自覚症状改善の利益が上回る人が多いため、有効な治療方法と考えます。

用手的リンパドレナージ

- 浮腫が強く緊満して癌性疼痛などの症状が強ければ、通常の用手的リンパドレナージではなく、自覚症状緩和のため患肢のみ柔らかくタッチングする方法も一考です。
- 手背・指や足背・趾に浮腫が進行すると、皮膚の硬化が強くなります。局所的に柔らかくさせるためには、強めの力で皮下組織をほぐすようにすることもあります。

圧迫療法

- 浮腫を十分改善させるためには、弾性包帯や弾性着衣による患肢の圧迫が必要ですが、癌性疼痛やしびれなどの症状が強ければ、圧迫することが苦痛につながるため、挫折しやすくなります。
- 当院では、家人の協力があり本人も改善を希望すれば、弾性包帯で浮腫をできるだけ改善させ、生活様式に応じて弾性着衣に変更しています。

圧迫療法

- 家人の助けが少なく、弾性包帯や通常の弾性着衣の使用にも苦痛で抵抗がある症例には、圧迫力のゆるいチューブ包帯をいくつか重ねて使用して経過を見ることもあります。
- 患肢の状態には個人差が大きいため、各症例に適した圧迫療法を探すことが重要です。そのためには医療従事者自身が圧迫方法に精通し、数多くの症例でその効果を確認する必要があります。

圧迫した上での運動療法

- リンパ管には弁があり、通常は弁の開く方向にリンパ液は移動し、皮膚表面の刺激や筋肉の収縮・弛緩により移動しやすくなります。
- 患肢はリンパ管が拡張しており、弁が損傷されリンパ液の逆流があると考えられます。患肢を表面から圧迫することにより、リンパ管の弁機能が改善され、さらに下腿や前腕の筋肉運動をすることで、筋肉ポンプ作用が増強されて患肢のリンパがより多く排除されます。

圧迫療法の弊害

圧迫療法によるトラブルが中心です。

- 圧迫した部分のかゆみや湿疹・皮下出血
- 患肢末梢の皮膚硬化、角化
- 関節への食い込み・疼痛
- 手指・足趾の虚血・末梢神経障害 など

対策は、異常を感じたら圧迫を中断ことや、圧迫力を強くしすぎずゆっくりとなれることが大切です。

終末期の浮腫の合併症

- 蜂窩織炎：炎症により浮腫がさらに悪化
- 皮膚の硬化：過度ではない圧迫療法が有効
- リンパ漏・皮膚潰瘍：非常に難治性で大きくなならないうちに創処置とともに圧迫
- 疼痛・しびれ・運動障害：がんの浸潤による症状で改善させることは困難ですが、必要なら薬物療法でコントロール

さいごに

- がん治療の変遷や抗癌剤の改良により、担がん状態や進行がんの状態でも長期間経過する症例が多くなり、併存する浮腫治療へのニーズが高まっています。
- 終末期の浮腫であっても決して改善しないものではなく、病態を理解して適切に治療を行い浮腫を改善させることは、患者のQOL改善に有用ですので、十分な意思疎通のもとで治療を行ってください。